



園だより

第2号

令和2年6月26日
駿河台大学第一幼稚園
園長 田所 恒子

あたり前を見直す

梅雨の合間の園庭に、子どもたちの元気な声が響いています。

幼稚園が再開して3週間が経ち、年中・年長組はクラスを二分した分散保育や午前保育を経て、平常保育での幼稚園生活を送っています。年少組も来週から昼食が始まり、平常保育となります。プレ保育ちゅーりっぷ組もようやく始まり、本園は、少しずつ日常の幼稚園生活を取り戻しつつあります。

例年、この時期の子どもたちは、担任との信頼関係をしっかり築き、学年により関わりの深さや質は異なりますが、学級の友達との遊びや生活を楽しめるようになります。しかし、6月から幼稚園生活が始まり、さらに「新しい生活様式」を受け入れなくてはならない今年度は、例年の「あたり前」のように見られた子どもたちの姿とは異なる姿があります。幼稚園の教職員も保護者の皆様も、そのことを受け止めて子どもたちを育てていかななくてはなりません。

入園・進級当初、待ちに待った幼稚園生活に大きな期待をもって登園する子どもたちの姿が多く見られました。緊張感が少しずつ溶けて新しい生活が見えてくるにつれ、幼稚園生活に戸惑いや不安を感じる子どもも見られます。長期の休園中、自粛生活を過ごした今年度の子どもたちには、ゆったりとした時間の中で家族と過ごした生活と、幼稚園という集団生活とのギャップがとても大きいものです。自分の思いが通らないことも多々出てきます。新しいクラスでは、友達関係が変わったり、今まで出会ったことのないタイプの友達と出会ったりするなど、戸惑いも多いことでしょう。しかし、これらの不安や戸惑いという「壁」を乗り越えることで子どもたちは、新しい世界に出会い、自信をつけ、大きく成長します。この成長の機会を捉えるために、担任と保護者の方が連携を取ることがとても重要です。保護者の皆様も、コドモンなどを活用して子どもたちの変化や様子をお知らせいただきたいと思います。

また、「新しい生活様式」により、例年の「あたり前」に行っていた行事や活動を中止や変更をしなければなりません。保護者の方にご来園いただき、全園児でお祝いしていた誕生会もその一つで、「密」の状態を避けるため、各クラスで誕生会を行うことにしました。年長組では、子どもたちと一緒に誕生会をどのようにお祝いするかを話し合いました。新しく設置されたホワイトボードに絵を描いたり、飾りを作ったりしてお祝いの装飾をしました。「お楽しみ」もクラスで楽しんできたラウンドチェーンをみんなで踊り、お祝いの気持ちが高まりました。クラスの友達の前で行うことで、司会を担当した子どもも自信をつけました。子どもたちの手で、友達と一緒に作り上げた誕生会はとても楽しく「この次は〇〇をしたい」「今度は僕が〇〇する」と、素敵な提案がたくさん出てきました。園によって、ほぼ一週間毎に4月、5月、6月、7月の誕生会を行うことがそれを可能にしてくれます。考えを出し合い、友達と一緒に実際に行い、そしてまた工夫・改善する、そんな体験は、思考力・表現力の育ちにつながります。目的に向かって自分の力を出しながら、友達と一緒に成し遂げることで、協調性や自己有用感なども育っています。そして、誕生会で作ったステージで歌ったり、踊ったり、合奏をしたりする姿が見られ、このことを例年行ってきた「一学期子ども会」に変わる「参観」につなげていかれそうで大変楽しみです。子ども会もこれまでの「あたり前」を見直しながら、「密」を避け、子どもたちの発達や現状に合った方法で実施したいと、教職員が検討に検討を重ねております。

私たちは、これからしばらく、ウィズコロナの生活を行っていかなくてはなりません。「あたり前」としてきた行事や活動を見直し、より子どもたちにふさわしい教育の実践を行ってまいります。



登園したらまず手洗いをする。外から保育室に入る時にも手を洗う。そんな習慣が身に付いてきました。年少児もとても上手に洗います。



遊戯室でも遊ぶことにより「密」の状態を避けていきます。ゲームボックスのねじ止めは年中児には少し難しいのですが、右手と左手を動かして一生懸命ねじを止めます。



昼食はこれまで友達と一緒に楽しく食べるものでしたが、しばらくは、対面を避けるための衝立を立てて安全に配慮して食べます。



全園児が遊戯室で一堂に会して行ってきた誕生会を、各保育室でクラス毎にお祝います。年長組はみんなで話し合い、誕生会の内容を考えながら友達をお祝います。